



脱炭素に貢献する新たな運送業へ アイデア光る環境配慮型経営

物流業界における環境への取り組みが注目される中、独自の環境プロジェクトを次々と展開している平田運輸株式会社。運送業と金属リサイクル事業の両輪で成長を続ける一方、SDGsや脱炭素社会の実現に向けた環境配慮型の経営を実践しています。



▲ 地元の小中学生が描いたポスターのラッピングトラックで交通安全を啓発

平田運輸株式会社

〒675-2103 加西市鶴野町83-98
<https://hirata-express.co.jp/>

金属スクラップのリサイクル事業から始まり、運送事業へと拡大。コロナ禍をきっかけにSDGsや環境問題への取り組みを本格化させた。加西市の本社のほか岡山と岐阜に営業所を構え、現在の従業員数は74名。離職率の低さも特徴。

資源循環型輸送でCO₂を削減

物流と金属リサイクルの二本柱で事業展開する平田運輸がSDGsの取り組みに力を入れ始めたのはコロナ禍でした。「社会の分断が進む中、持続可能性を重視する会社運営が必要でした。物流業界の社会的地位も向上させたかった。そのためには社会貢献が必要と考えました」と代表取締役の平田優宇さんは話します。日々の取り組みにSDGsや環境の目線を加えることからスタート。データの活用や点検・整備による燃費改善、トラックにソーラーパネルを搭載して発電する新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の実証実験への協力、環境啓発を取り入れた交通安全教室の開催などの活動が続けるうち、令和7年度に「兵庫県環境にやさしい事業所賞」を受賞しました。

なかでも注目を集めた取り組みが空荷のトラックを減らしてCO₂排出量の削減を目指す「Ecogistics Project(エコジスティクスプロジェクト)」です。工場への製品輸送と金属スクラップの回収が1台でできるトラックを整備することで、往路は製品、復路はスクラップを積んで走るシステムを構築。効率的な輸送を実現しました。プロジェクトに参加した荷主には、輸送で発生したCO₂を差し引くことができるカーボンクレジットを付与しています。「自社でできることだけでなく、他の企業の皆さんとも一緒に脱炭素の取り組みを広げてい

きたい」と平田さん。Ecogistics Projectは令和7年度の「気候変動アクション環境大臣表彰」を受賞しています。

サステナブルな新拠点を開設

平田運輸が現在、加西市内で進めているのが新たな物流拠点「KASAI SUSTAINABLE BASE(KSB)」の開設です。「物流危機の解決とサステナビリティの提案」がテーマで、物流倉庫や事務所棟、休憩棟などの建物はすべて木造。外壁には兵庫県産の杉板を使用し、事務所で使う机はリユース品を使うなど細部まで環境に配慮しています。

建物を彩る植栽は大阪・関西万博でサステナブル賞を受賞したルクセンブルク館から譲り受けました。植栽への散水やトラックの洗車に使える雨水タンクを設置したほか、地域の在来種を含めたビオトープも整備する予定です。また、休憩棟は地域の子どもたちや住民がSDGsを学べる場として開放します。ワークショップやミーティングをはじめ、災害時の避難場所としても役立つ計画です。「今後も柔軟性を持って、地域や運輸業界の活性化とSDGsにつながる取り組みを進めていきます」と意気込む平田さん。建物が完成し稼働を待ただけとなったKSBは、同社の先進的な取り組みの象徴になりそうです。



▲ CO₂を削減し脱炭素社会を目指す「Ecogistics Project」のロゴマーク



▲ 市内に新たに開設する物流拠点「KASAI SUSTAINABLE BASE」